

浪江駅西側地区公民連携まちづくり アイデア提案

2024年10月11日

提案区分：「地域経営主体」

提案者名：株式会社いのちとぶんか社

代表取締役 葛西啓之

※構成員は、P.8に記載



提案概要 ～私たちが目指す「浪江町の姿」～

事業提案にあたり、私たちが目指す「浪江町の姿」を共有いたします。

私たちが目指す姿

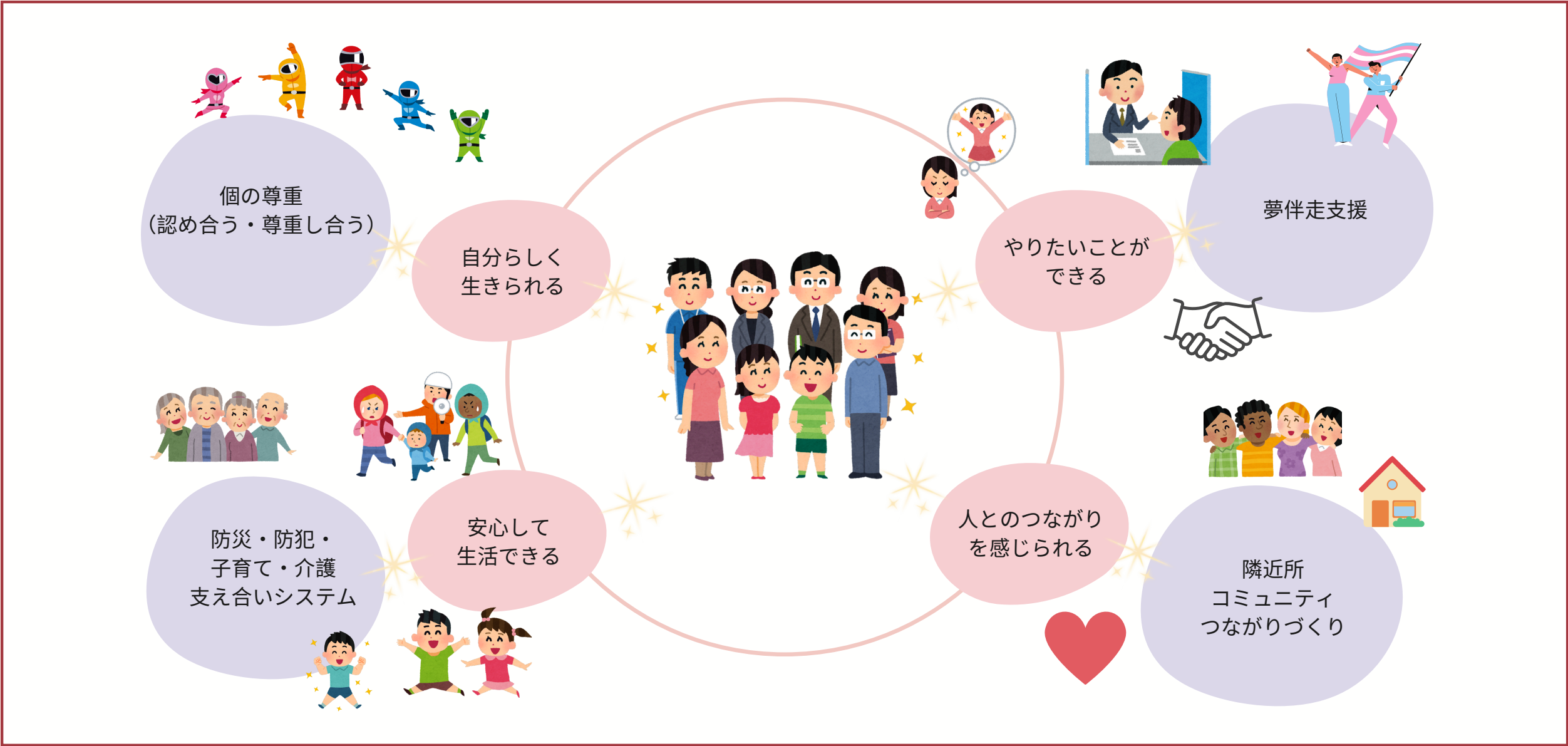
多様な居住者属性が融合し、助け合い、それぞれの属性が「イキイキ」と幸せな生活を送ることができる浪江町

イキイキと幸せな生活とは・・・下記の要素が満たされている状態と仮定します。

- 【自分らしく生きられる】
- 【安心して生活できる】
- 【人とのつながりを感じられる】
- 【やりたいことができる】

そのために
求められること

個の尊重（互いを知る・認め合う・尊重し合う）
防災・防犯・子育て・介護等の支え合いシステム
夢や、やりたいことの伴走支援
隣近所や趣味のコミュニティなどの、つながりづくり



提案概要 ～現状と最悪の想定～

町の居住者の現状

震災以降、元々浪江町に暮らす町民に加え、県内外からの移住者も増え続けています。
移住者と言っても、仕事の都合で移住してくる人や教育環境に魅力を感じ家族で移住してくる人、
単身で新しい生活を求め、移住してくる人など、その背景も様々です。

【令和6年8月末時点の町内居住者数及び内訳】
2,238人（1,399世帯）
⇒そのうち、約790人は、町外からの移住者（全体の1/3）
⇒また、居住者全体の約4割が65歳以上の高齢者

⇒現在の浪江町は、住民層が多様化し、今後、さらに多様化する傾向にあります。

⇒その要因のひとつに、F-REIの立地があります。
F-REI立地に伴い、県外のみならず、海外からも多くの研究者とその関係者が移住してくる予定です。

【F-REI・産学官連携による居住者増加の予測】
研究員等・・・約250人
大学院生等・・・約150人
産学官連携・管理運営スタッフ・・・約200人

F-REI関連合計 約600人
既存拠点の人員 約400人

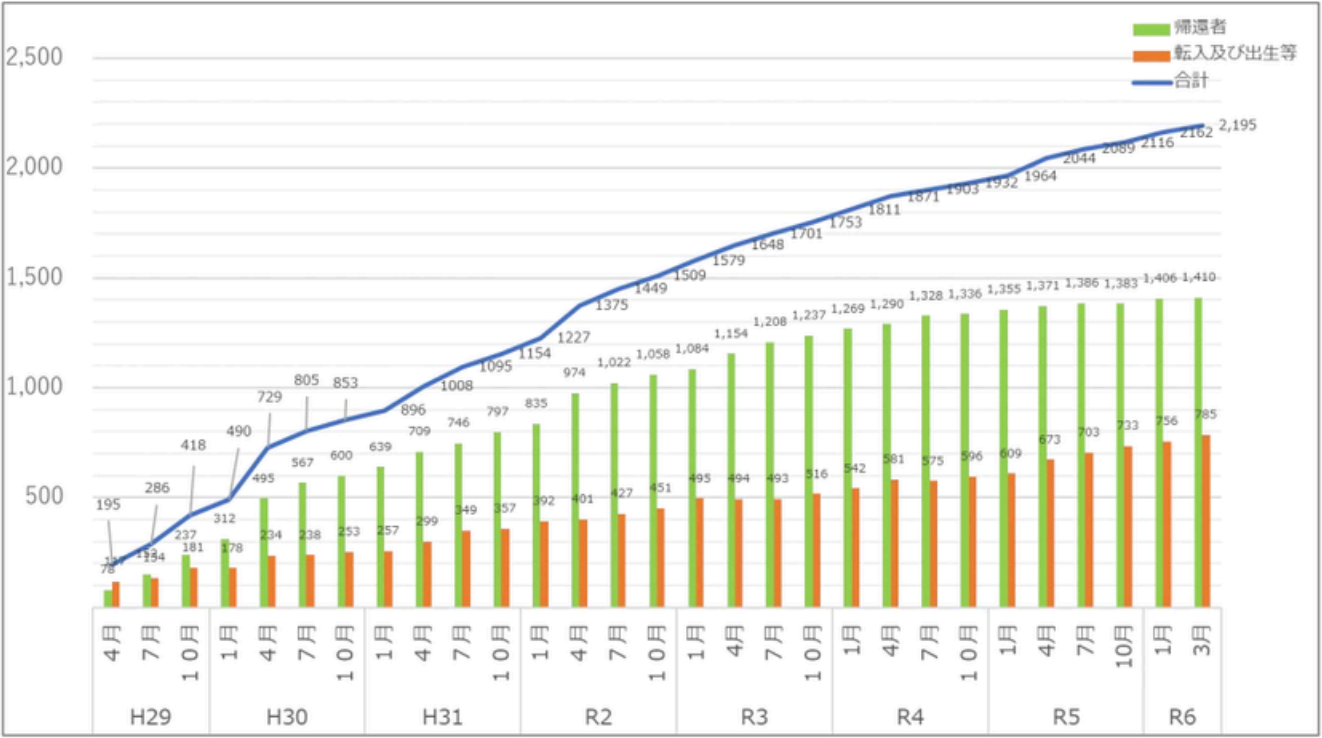
町は、産学官連携により、拠点関連で約5,000人規模の雇用創出を目指すとしています。
（参照：浪江駅西側地区公民連携まちづくりアイデア提案募集要項）

上記のような、多様な層の住民が生活する浪江町においては、「意図的に」つながりづくりをしていかなければ、
各層が「それぞれのコミュニティ」で生活し、いざという時の助け合いや日頃からの支え合いができる関係性が構築できないのではないのでしょうか。
さらには、そのような状況が続くと、「コミュニティに全く属さない人」が生まれたり、各層のコミュニティが独自の取り組みを推進したりして、
多様な層間の交流も生まれないことが想像されます。（＝分断のはじまり）

最悪の状況の想定

上記のような現状で、コミュニティ形成の取り組みや活動が行われないと、下記のような「最悪の状態」になる可能性があります。

- （最悪の状況の例）
- 【元々の住民】は高齡化。運転免許を返上。自分での買い物や通院も困難な状況。孤独な生活が続く。
 - 【移住者】は、移住したものの、近所の知り合いもできず、家と職場と買い物施設の往復となり、孤独な生活が続く。
 - 【移住者】同士で集まり、新しいイベントが生み出され続け、【地元住民】が参加しづらいイベントだらけで、移住者と地元住民が分断されていく。
 - 【F-REI】で行われている研究は、独自に拠点内で行われているだけで、町民の産業における実証研究に至らず、【研究者】と【住民】は分断されたままになる。町に研究の知見が活かされない。
 - 【F-REIの研究者】は、研究所と自宅の往復だけで、息抜きができず、息詰まった生活になる。
 - 【研究者】コミュニティだけで集うようになり、多文化の共有も行われず、文化の違いによるお互いの拒否反応が生まれ、闘争が勃発する。



出典：浪江駅西側地区公民連携まちづくりアイデア提案募集説明資料

提案概要 ～解決策と本提案の概要～

現状と最悪の状況に対する【解決策】

それぞれのコミュニティが、それぞれの生活をしていれば、つながる機会はなかなか創出できません。
そこで、この現状を改善し、最悪の状況を回避するための解決策として、「**意図的なつながりづくり**」が必要だと考えます。

※ここで言う、「**意図的なつながりづくり**」とは、「【知る機会】と【集う機会】を創出する媒介者を設定し、交流を生み出すこと」を指します。

「意図的なつながり」があれば、どのような町が生まれるのでしょうか。

- 【高齢者】と【移住者】がつながることで、
買い物に一緒に行ったり、食事の時間を共にすることができ、地元の【高齢者】も【移住者】も**孤独を解消**することができる。
- 共通の趣味の時間や知り合うきっかけがあるという**情報**を得られることで、**つながりづくりの**一歩を踏み出すことができ、
【高齢者】や【移住者】の**孤独を解消**できる。
- 【F-REI】で行われている**研究内容**を、【住民】が**知る機会**を設け、その研究を日々の農業や産業で**実証実験**をする。
その結果、【住民】の**農業や産業が効率化**され、【研究者】にとっても**研究成果が深まる**。

ただ、「**意図的なつながり**」は、一足飛びで、得られることではありません。
急につながる、近付けるのではなく、
「それぞれのコミュニティがどんなことをしているのか」、「どんな考え方を持っているのか」、「どんなことを目指しているのか」を、
まずは、「知る機会」が必要です。

知ると言っても、急に「教えてください」と各コミュニティに入っていけるわけではありません。

そこで、解決策（当事業案）を提案いたします。

本提案の概要

「意図的なつながり」をつくるために、直接的な接点をもつ前に、「のぞき見」ができる機会を創る。

*のぞき見とは・・・第三者からの発信を通して、町内に暮らす人々やコミュニティの情報を得て、
興味をもった情報については、さらに知る機会を得られる、「間接的及び段階的な情報収集の手段」。

その「のぞき見」ができる機会とは、具体的には、
「コミュニティFM局」が提供する、「**情報共有の場**」と「**興味を持った人が集う拠点**」の創出です。

※ここで言う「**情報共有の場**」、「**興味を持った人が集う拠点の創出**」については、P.6/P.10 にて説明します。



1

2

3

4

5

6

7

8

9

浪江町にコミュニティFM局を！
浪江駅西側地区に、コミュニティFM局のサテライトスタジオの設置を提案します。

今後、浪江駅周辺整備事業及び福島国際研究教育機構の設立に伴い、大きく変わる浪江町において、
有益な情報を正確に、迅速に共有し、人と人、組織と組織、コミュニティとコミュニティをつなぐ、町の潤滑油としてのコミュニティFM局を設立します。

コミュニティFM局とは

コミュニティFMとは、**特定の地域に限定して放送を行うFMラジオ局**のことです。

1992年に制度化され、**地域密着型の情報提供**を目的としています。
全国放送や県域放送と違って、**地域色を生かした市民参加型の番組や、地域の商業情報、行政情報、地元のニュースの発信拠点**として、**地域活性化に貢献**することを目指します。

また、**防災情報の発信基地**としても重要な役割を果たしており、災害時には、地域住民にとって有益な情報を迅速に提供します。

- ・現在、全国に約320局
- ・送信電力20W（最大）、総務省の無線免許が必要
- ・市販のラジオ、カーステレオなどでも受信可能

福島県内においては、**現在7局が開局中**。（福島市、会津若松市、喜多方市、本宮市、郡山市、須賀川市、いわき市）
浜通り地方においては、**いわき市**にのみ開局中。
※震災後、相馬市、南相馬市、富岡町にて臨時災害放送局が立ち上がったが、現在は、既に放送終了。

また、コミュニティ放送局が放送すると同時にインターネットでストリーミング配信をする「**サイマルラジオ**」というウェブサイトを活用することで、町内のみならず、全国、全世界に、オンタイムで放送を届けることができます。

コミュニティFM局に期待される役割

東日本大震災では、大規模停電によりテレビやインターネットなどのメディアからの情報が断絶され、住民が大きな不安を抱く中、**コミュニティFM局は、避難場所、行方不明者の搜索、救援物資など、最も重要な情報を発信**することができました。
2024年元旦の能登半島地震をうけて、改めて、コミュニティFM局が地域防災や復興に果たす役割が再認識されています。
また、コミュニティFM局では、**住民たちがパーソナリティとして意見を伝える場所**を提供します。
まちづくりへの参加意欲を高める役割を果たし、**住みやすい社会を実現するための“地域の潤滑油”**として重要な役割を果たしています。
その上、住民自らの言葉で、まちの魅力や文化をアピールすることで、**観光客の誘致や移住促進などに貢献**することができます。



1

2

3

4

5

6

7

8

9

提案概要

浪江町のコミュニティFM局の特徴

- ① **情報提供+コミュニティ創出の場（集う場）を併設します。**
⇒日々の放送による情報発信のみならず、放送を聞いて、集いたい人が集まることができる、スタジオ併設の交流スペースを創出します。
- ② **強制的につなげるのではなく、「つながりたい」と思ったときに手を差し伸べる存在になります。**
⇒まずは情報提供により、コミュニティを「のぞき見」できる仕組みをつくり、興味を持った人同士が集いたいときのサポートを推進します。
⇒それにより、持続可能なつながりづくりが醸成されます。
*サポートとは・・・興味を持った人が、その対象につながれるように、人と人、組織と組織、コミュニティとコミュニティを媒介します。
- ③ **避難先との連携・地域に開かれたラジオ局を目指します。**
⇒サイマルラジオを活用し、町内のみならず、避難先にいる浪江町民の方、浪江に興味のある方に情報を届けます。
今は浪江町に戻れなくても、ラジオを通じて、心で浪江を感じ、また故郷につながり、足を運ぶきっかけをつくります。
⇒町民一人ひとりが主役のラジオです。一人でも多くの方にご出演いただき、地域に愛され、町民が主体のラジオを目指します。
- ④ **災害時、「命を守る情報発信」をいたします。**
⇒平常時から、防災に関する番組枠を設け、町民の「防災意識向上」に寄与します。
⇒行政と連携し、災害時には、正確で迅速な情報発信を行います。（防災無線の割り込み放送、避難所開設情報、被害情報等の発信）
⇒町内全戸に、「緊急放送対応のラジオの配布」を検討いたします。これにより帰還者の多くを占める「高齢者」にも情報が行き届く環境を整えます。
- ⑤ **移住定住の促進に寄与します。**
⇒コミュニティFM放送の内容を、サイマルラジオをはじめとするインターネットラジオでも放送いたします。
それにより、全国、さらには全世界にも、浪江町の現在の情報をお届けし、町に興味を持つ人やファンを増やし、交流人口の拡大や移住促進につなげます。
⇒移住後も、ラジオを通じて、町内の様々な情報を得られることで、慣れない環境での生活の支えになり、人やコミュニティとのつながりも創出します。

コミュニティFMを通して実現できること

- 【避難先と浪江町をつなぐ】・・・ 避難先で居住している町民に、浪江町の今の情報を伝えることで、町につながり続けるきっかけになります。
- 【町内全域にリアルタイムで情報発信ができる】・・・ 同じ町内といえど、浪江町は広い。津島でも請戸でも、タイムラグなく、均一に情報を届けることが可能です。
- 【浪江町の旬な情報を、全国・全世界に発信できる】・・・ 今後F-REIに来る可能性のある研究者をはじめ、浪江町に興味がある人が、世界のどこにいても浪江の旬な情報を得ることができます。
- 【町民の心の支えになる】・・・ 朝、ラジオをつけて、いつもの聴きなれた声を聴き、安心する。同じ町民の近況報告を聞き、共感したり、つながりを感じたりすることもできます。
- 【町民の日々の楽しみになる】・・・ 毎日、決まった時間にお気に入りの番組が聴ける楽しみ。番組にメッセージを投稿する楽しみ。新しいことを知る楽しみ。
- 【町民の生きがいになる】・・・ ラジオに出演することで、自分のことを話したり、新しい出会いがあったり。出演者にとっての生きがいになります。
- 【町民一人ひとりが主役になれる】・・・ 町民一人ひとりにスポットライトを当てるコミュニティFMでは、町民みんなが主役です。
- 【災害時、命を助ける媒体になる】・・・ 災害時臨時放送や防災無線の割り込み放送を活用し、必要な情報を、迅速に正確にお届けします。
- 【多様な居住者が、互いを理解し、融合するきっかけとなる】・・・ 普段は交わらない人たちも、ラジオを通して、日々やっていることや考えなどを共有し、理解し合えるきっかけになります。
- 【町の機運醸成、活性化につながる】・・・ 町で行われている日々の活動やイベントが共有され、地域のリアルタイムの動きを把握できます。



1

2

3

4

5

6

7

8

9

プログラム案

1	放送時間	基本的には、毎週月～金曜日の13～17時放送（放送時間や曜日は段階的に増やしていきます）
2	放送形態	生放送と収録放送の組み合わせ
3	話者	専任パーソナリティ＋町民パーソナリティ＋ゲスト
4	放送枠	購入枠・報酬枠・有志枠を用意 *基本的には有志参加（ステッカープレゼント等） ⇒町民参加型で、町民にとって身近で、愛されるラジオを目指す
5	放送内容	日常の浪江町における「暮らしに役立つ情報」と 災害時には、「避難情報や被害状況、物資の配給情報」などをお届けする



昼帯番組

【放送時間】毎週月～金曜 13～17時
【番組担当者】日替わり町民パーソナリティ
（ゲスト出演あり）

- 【番組内コーナー例】
- ・浪江インフォメーション（役場情報）
 - ・今日のイオン（お買い得情報）
 - ・今週の請戸もの
 - ・道の駅インフォメーション
 - ・町民のつぶやき
 - ・音楽リクエスト
 - ・週末イベント情報
 - ・今日のゲスト

MUSIC LINE

【放送時間】毎週月・水・金 19～21時
【担当者】「なみえの空から」運営事務局

- 【番組内コーナー例】
- ・日替わりアーティストの出演
 - ・生歌披露
 - ・イベント情報
 - ・ライブ情報



町長の部屋

【放送時間】毎月第一火曜日 19-20時
【担当者】町長と
番組担当パーソナリティの対談

- 【番組内コーナー例】
- ・町民からの葉書に対する回答
 - ・町長からのお知らせ
 - ・現在の町の状況
 - ・今月の町ニュース
 - ・町長の展望

君もアベンジャーズ

【放送時間】毎月第一木曜日 19-21時
【担当者】なみえアベンジャーズ
（ゲスト出演あり）

- 【番組内コーナー例】
- ・浪江町商工会冠番組
 - ・アベンジャーズの想いや展望
 - ・町内トピックの発信



※番組構成は、現段階の案であり、今後より詳細を検討して参ります。

事業主体 ～メンバー紹介～

立上げ時期（準備会）は、有志で活動を行い、
資本集めをした上で組織化し、正社員として局員が活動できる組織を設立します。

1

2

3

4

5

6

7

8

9

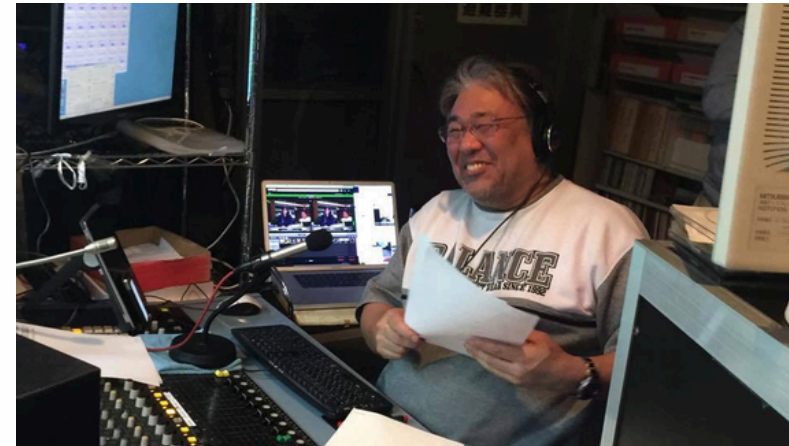


葛西 優香

- ・かつしかFMパーソナリティ・番組企画・営業経験者
- ・株式会社いのちとぶんか社 取締役

☆なみえでのコミュニティFM開局が夢です

2024年10月 準備会メンバー（有志）
2026年4月 コミュニティFM局（業務委託）



西 健志

- ・FM SAGAMI、FMモットコムパーソナリティ経験者
- ・現役パーソナリティ/ミュージシャン

☆技術面も喋りもお任せあれ

2024年10月 準備会メンバー（有志）
2026年4月 コミュニティFM局 局長（正社員）



今野 聡

- ・南相馬さいがいFM経験者
- ・まちづくりなみえ コミュニティ支援員

☆南相馬での経験を活かします

**2024年10月 準備会への
外部サポート・アドバイス**



塩野 美里

- ・株式会社いのちとぶんか社 社員

☆子どもの頃の将来の夢は、
ラジオのパーソナリティになることでした

2024年10月 準備会メンバー（有志）
2026年4月 コミュニティFM局（業務委託）



古屋 かおり

- ・FM SAGAMI、FMモットコムパーソナリティ経験者
- ・現役パーソナリティ/ミュージシャン

☆毎日、明るくさわやかな声でお届けします

2024年10月 準備会メンバー（有志）
2026年4月 コミュニティFM局（正社員）



及川 里美

- ・浪江町職員（業務外での関与）
- ・一般社団法人浪江青年会議所 所属
- ・浪江町オリジナルソング「いくどはあなみえ」の歌い手
- ・福島放送「シェア」の県民リポーターとしてテレビ出演中

☆故郷に対する想いは誰にも負けません
2024年10月 準備会メンバー（有志）
2026年4月 コミュニティFM局（外部サポート）

組織構成

コミュニティFM 準備会 (将来的な「コミュニティFM局」*法人化)



制作・技術局

【主な業務】

- ・番組内容の企画
- ・番組制作（録音・編集）
- ・放送プログラムのシステム入力
- ・イベント企画運営

【1日のスケジュール】

<AM>

- ・午後の昼帯番組の準備
- ・機械確認

<PM>

- ・ミキサー担当（ディレクター業務）



放送局

【主な業務】

- ・昼帯番組の進行担当
- ・その他の番組の出演者管理
- ・番組内容の企画
- ・取材

【1日のスケジュール】

<AM>

- ・午後の昼帯番組の準備
- ・取材

<PM>

- ・番組の進行担当



企画営業局

【主な業務】

- ・出演者集め
- ・スポンサー集め
- ・営業活動
- ・イベント企画運営

【1日のスケジュール】

<AM>

- ・スポンサーへの訪問
- ・参画企業/団体との打ち合わせ

<PM>

- ・取材



日々の放送企画・放送管理及び、技術面の操作は、【制作・技術局】が担当し、番組の進行、話し手としての演出及び、出演者の管理は、【放送局】が担当、FM局全体の下支えとして、組織の企画運営、収支計画、営業活動は、【企画営業局】が担い、それぞれの局が役割を分担しながら組織を運営していきます。

1

2

3

4

5

6

7

8

9

土地利用・施設整備に関すること・必要敷地面積の概数

<テナントのみの提案>

当提案を実施するために必要な床面積の概数：20～24畳（9.8～11.76坪/32.4～38.88㎡）

① 8～12畳

⇒ **コミュニティFM局のサテライトスタジオ**（トークブース・コントロールルーム）

② 6畳

⇒ **スタジオ外の待合室**（コミュニティの交流拠点・つながるきっかけの空間）

③ 6畳

⇒ **スタッフ事務所**（送出機・コピー機・デスク4つ他） ※事務所は別の場所に設置でも可能です。

★ スタジオは「**ガラス張り**」のサテライトスタジオが 認知度アップのためにも効果的です。

★ 8～12畳あれば、多人数のゲストとのトークも可能な「**トークブース**」と
ミキシングや編集を行う「**コントロールルーム**」の2部屋で放送・運営が可能です。

★ 浪江町のコミュニティFM局の特徴として、コミュニティFM局を起点とした、「**コミュニティの交流拠点**」を設計します。
番組を聞いて、出演者の話に対して興味を持った人と、その対象をつなぐ、「**対話の場**」を創造します。
（例えば、F-REI研究者の研究の話を聞いて、興味を持った地元農家さんと研究者をつなぎ、実証実験を行うなど）
⇒ **多様な層の住民が「つながる」きっかけとなる空間**を創造します。

施設運営

P.8の「事業主体」のメンバーを中心に、施設運営を行います。

局長の西健志と正社員の古屋かおりを中心に、日々の施設運営を行い、
業務委託や外部サポートとして参画する葛西優香、塩野美里、及川里美、今野聡も都度、運営サポートに入ります。
日々の清掃及び、機材の維持管理についても、メンバーが実施いたします。

また、施設の運営とは別で、ラジオの運営については、

*日替わりの町民パーソナリティ（ボランティア）を起用し、多くの町民が参加できる運営を目指します。
日替わりで町民が訪れ、多様な層との交流のきっかけとなる、そんな施設を目指します。

また、スタジオは、ガラス張りにし、住民及び観光客が自由に観覧できる施設にします。
地域に開かれ、地域に愛されるコミュニティFM。それが浪江町に立ち上がるコミュニティFM局です。

*日替わり町民パーソナリティ（ボランティア）について、ゆくゆくは、有償化とし、持続可能な体制を目指します。



外観ーガラス張りー



建物の中に設置する場合



トークブース



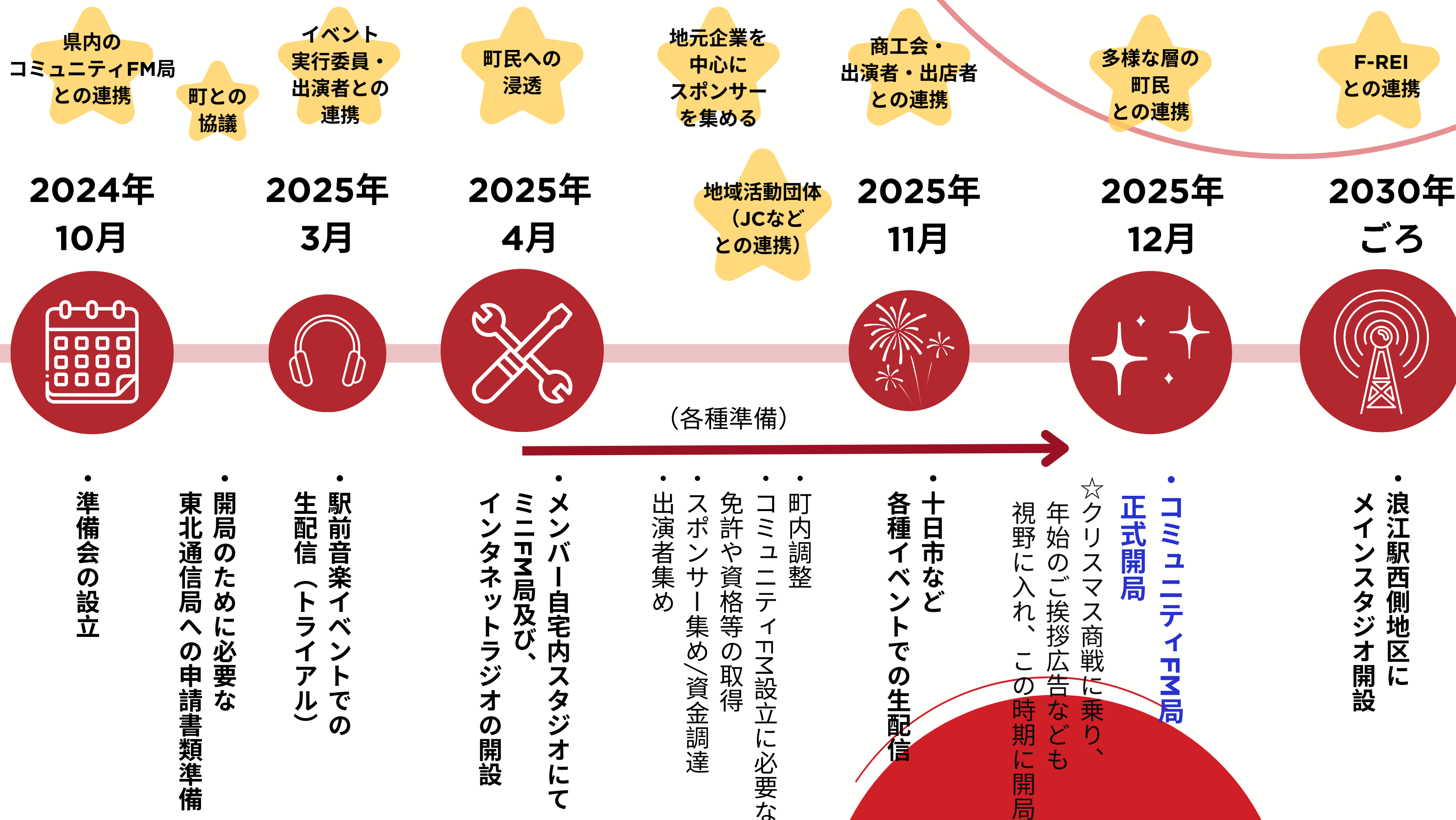
コントロールルーム



待合室（交流スペース）

事業スケジュール ～提案の実現可能性・持続可能性に関すること～

下記の事業スケジュールを基に、**段階的かつ計画的にコミュニティFM局を創出**していきます。
また、コミュニティFM局を通して、**着実に、町民の自発的な「つながりづくり」**を推進し、**持続可能な体制を構築**していきます。



10

11

12

13

14

15

16

提案の実現可能性

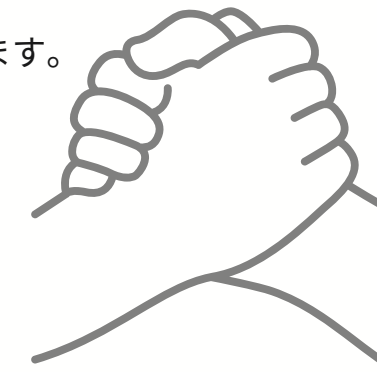
当事業は、**2024年10月に準備会を設立**し、前項の事業スケジュールを基に、実現に向けて動き出しています。

メンバーの中には、**コミュニティFM経験者が4名**おり、彼らの知見を基に、事業計画やコンセプトの検討などを行っております。
また、過去に在籍していたコミュニティFM局や現在番組を担当しているコミュニティFM局から、**浪江町での実現に向けた各種情報収集**を進めています。

また、**福島県内のコミュニティFM局（須賀川市ウルトラFM・本宮市FMモットコム・いわき市SEA WAVE FMいわき）**ともつながりを持ち、ヒアリング、現地視察などを重ね、開局に向けた具体的なアドバイスを受けています。

また、**来年2025年4月からは、メンバーの自宅内スタジオにて、ミニFMを開始予定**です。

今後の、資金面や施設面などの課題はありますが、補助金等も活用し、**2026年4月の開局**に向けて、着実に準備を進めてまいります。



現時点の連携先

福島県内



持続可能性

当事業は、町民及び、地元企業、地域団体を巻き込み、地域を仲間にし、事業を継続していきます。
事業を通して、コミュニティFM局単体の活動ではなく、**住民が自らコミュニティFMを活用し、動いていく状態を創造**します。

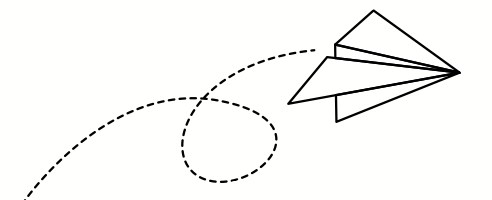
例えば、
令和9年度、浪江駅東側にできる施設を活用しながら、**【住民の活動】**が行われるように、コミュニティFM局では、住民のやりたいことを吸い上げ、実現までの道のりを可視化し、必要な協業先との連携を図りながら、伴走します。
情報発信媒体としての機能だけではなく、**住民のやりたいことを実現する機能として、住民に寄り添い、活用される存在になります。**

駅前の**【交流施設】**で行われるビジネス支援では、必要な人に必要な時に必要な情報が届くように、コミュニティFMを通して情報発信の支援を行います。
さらには、ビジネス支援によって立ち上がった事業を、継続的に追い、事業の情報発信にも活用していただき、**事業の継続をサポート**します。

【産学官連携施設】では、大学と企業の取り組みを、コミュニティFMを通して発信し、地域の方々に広く知っていただく機会を創出します。
それにより、**より地域に必要とされる、地域に根差した事業を展開することができ、持続可能な事業提案**につながります。
そこで創出された事業についても、コミュニティFMを通して継続的に情報発信を行っていただき、**住民に浸透させる効果を発揮**します。

【F-REI】の研究結果を、コミュニティFMを通して、住民に届け、興味を持った住民が活用できるように、**対話の場（交流の場）を創出**します。
住民が研究結果を活用することで、研究にとどまらない、住民の産業や農業、生活にとっても**価値のある実証実験**へとつながります。

このように、**【住民・民間企業・研究機関・行政】が、互いに連携し合い、やりたいことを実現するために、自らコミュニティFMを活用し、動いていく状態を創造**します。
そして、**それぞれの価値を最大化するために、継続して活用していただけるような状態**になることを目指します。



ガラス張りのスタジオで、コミュニティFM局と町民が融合し、さらには、観光客も訪れる「にぎわい創出のスポット」となります。

①コミュニティFM局の「ガラス張りのスタジオ」ができることで、そこには、事業主体メンバーのみならず、「日替わり町民パーソナリティ」が、毎日かわるがわる収録に訪れます。

当事業では、可能な限り、すべての町民の方々に出演していただくことを目指しています。

そのため、普段、駅を利用しそうな若者世代や主婦層だけでなく、駅にあまり訪れなさそうな、ご高齢者も収録のため、駅周辺施設を訪れます。

多様な層が行き交うまちなみの創出に寄与します。

②コミュニティFM局で発信された情報をもとに、町民と町民、さらにはコミュニティとコミュニティがつながり、新たな交流の場、「多様な層の人々が集う拠点」となります。

普段生活しているだけではなかなか接点のない、多様な層が、コミュニティFM局を通じて、情報を共有し合い、ゆるやかにつながり合う、「きっかけの場所」を提供します。

それが、「スタジオ外の待合室」（コミュニティの交流拠点）です。

③「ガラス張りのスタジオ」は、ただラジオを収録するだけの施設ではなく、観光客も訪れる「町の名物スポット」としての機能も果たします。

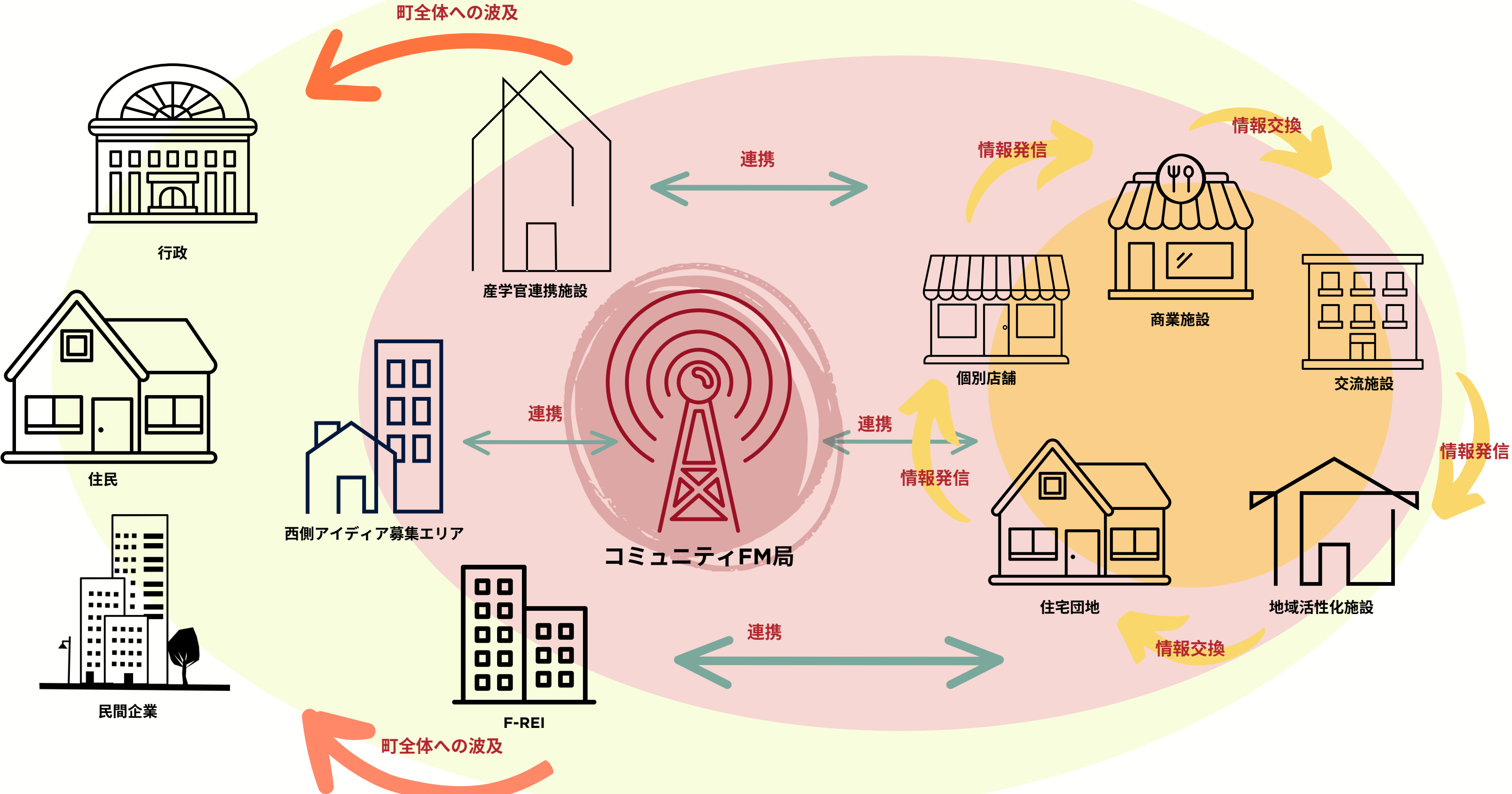
番組やパーソナリティに人気が出たり、知り合いがラジオに出ることで、番組観覧に来る人も増え、地元住民を中心に多くの人々が集います。

また、コミュニティFMが町の魅力の一つになることで、視察や観光客にとっても、訪れる場所の一つとなり、駅周辺のにぎわいを創出します。



エリアマネジメント

駅前各施設間の情報交換及び、情報発信を行い、浪江駅全体として、連携が取れ、活気あふれる状態をつくります。
また、駅東側だけでなく、駅の東側と西側をつなぐ連携機能も担います。
そして、コミュニティFM局では、駅周辺だけでなく、町内全域及び避難先まで情報を届け、駅周辺を中心とした町全域のエリアマネジメントに寄与します。



① 浪江駅西側開発と東側開発において、施設が完成した際に、「住民主体のまちづくり」が行なえるように、コミュニティFM局を通して、施設が完成する前から「コミュニティ形成」を進めます。

ここで言う、「住民主体のまちづくり」とは、
いろいろな特徴をもつ住民が、**それぞれの特徴や特技を活かし、自らの意思で、自分たちが暮らす「まち」に関わることを指します。**

その「住民主体のまちづくり」を行うために、
今現在の浪江町に必要なモノは、以下のような要素であり、その必要なモノの創出に、コミュニティFM局では、以下のようなアプローチをいたします。

【住民主体のまちづくりを行うために、今の浪江町に必要なモノ】

- ・まちづくりに関わることは特別なことではなく、「**日々の暮らしで当たり前のことであり、自然なことである**」という気づき
- ・企業、行政区、行政、各住民団体、各組織に属す個人に「**役割があり、自分の好きな範囲でまちの運営に関わることができる**」という気づき
- ・誰かに頼るではなく、「**自分たちでこの町をつくっていくんだ、その可能性があるんだ**」という気づき

【上記で示した「必要なモノ」の創出を、コミュニティFM局がどのように担えるのか】

- ・「**まちづくり座談会**」を随時スタジオ脇のスペースで継続的に実施する
 - ⇒そこで話われたことを番組にて伝え、実現過程を伝えていく
 - ⇒座談会に関わった人に実際にご出演いただき、その関わる過程における自身の変化を語っていただく
- ・活動が行われる過程で、「**〇〇の特技を持つ方**」など**具体的に個人が持つ特徴や特性を提示**し、参加者を募り、手をあげてもらうチャンスを作る
- ・**他地域のまちづくり事例**なども、ゲストをお招きするなどして**発信**して、まちづくりの知見を住民同士で深める
- ・**放送とリアルの両面で人をつなぎ**、企画の遂行と情報発信で終わらない取り組みを生み出し続ける。そのハブにFM局になる。
 - ⇒放送局は遠い存在ではなく、**身近な相談相手として存在**しているような価値を創造する

② F-REIとの協働（農業と研究の融合、産業と研究の融合、まちづくりと研究の融合）

研究従事予定者にヒアリングの結果、F-REIの研究者が求めていることは、以下の内容であり、それに対するコミュニティFM局のアプローチを提案いたします。

【F-REIの研究者は、何を求めているか】

- ・住民の生活実態の把握（フィールド調査に入る前の情報集めが必要 ⇒ ラジオで得た情報を元に調査対象者を検討する）
- ・研究手法の実証実験対象の選定（研究成果を、実験を通して共に研究発展に寄与してくださる住民の方へのアプローチ手段）
- ・研究以外の余暇の時間の充実（浪江町での生活を満喫するためのヒント、浪江の文化を知る機会、自身の文化を伝える機会が必要）
- ・F-REIで研究した後の、次のキャリアステップ方法/就職先の検討（具体的な募集ポストの情報を求めている）

【上記のF-REI研究者が求めていることに対して、コミュニティFM局ではどのようにアプローチし、解決ができるのか】

- ・日替わり町民パーソナリティが、浪江町での生活実態を語ることで、浪江町民の「生活の様子」を知ることができる
- ・産業、農業、商業従事者にご出演いただき、現状を語っていただくことで、産業・農業・商業などの現状の一部を知ることができ、実証実験の候補先の選定につながる
 - ⇒連絡先のつなぎ役をコミュニティFM局が担う（ゲストとして出演してもらっているの、コミュニティFM局と産業などの従事者は連絡先もつながっている）
- ・飲食店情報やそれぞれの文化を発信する番組やコーナーを設け、まずは「**お互いの文化を知るきっかけ**」を創出する
- ・番組だけでなく、リアルで文化を感じられるイベントも企画し、町内での文化交流を促進する
- ・コミュニティFM局が各大学機関やF-REIとの連携も図り、就職先情報など、研究者向けに特化した番組も放送する

また、F-REIの研究状況や成果をコミュニティFM局で発信することで、住民にとっても、良い効果をもたらします。
普段生活していて接することのない研究者が、どのような研究をしているのか知ること、同じ町内に暮らす住民としての不安感も消え、取り組みについて理解することができます。
また、研究内容に興味のある人が、研究について学ぶ機会やより身近に触れる機会を提供し、町民とF-REIが身近な存在になり、お互いが刺激し合える関係性をはぐくみます。
町民とF-REIが分断されるのではなく、相互理解を通して、調和して、町に相乗効果をもたらすような、「連携機能」をコミュニティFM局が果たします。



資金計画、収支計画

開局資金及び、来年2025年から2034年までの10年間の収支計画について、ご説明いたします。

開局資金について

コミュニティFM開局に必要な資金の相場は、5,000～8,000万円と言われています。
そのうち国の総務省を中心に、復興庁や経済産業省の補助金を活用することで、必要な自己資金は約2,000万円程度まで抑えることができます。
2,000万円の自己資金については、地元企業様を中心に、新たに浪江町に進出してこられた企業様よりスポンサーを募り、負債のない形で、1年目の開局を迎えたいと考えております。

※開局資金に含まれるもの：アンテナ設置費用、機材一式購入費、建物代、内装工事代、コンサルティング費用、人件費、緊急放送対応ラジオ全戸分購入費
※現在、町内居住者の約4割が65歳以上の高齢者である現状を踏まえ、自ら情報を取りに行くことの難しい高齢者層にも、等しく必要な情報が行き届くように、「緊急放送対応のラジオ」の全戸配布を検討いたします。

運営費について

- 年間運営費：2,000～3,000万円程度（人件費・ゲスト出演料・テナント費・雑費・著作権・配信費等）
- 初年度売上：2,500～3,500万円程度（スポンサー70%/行政出稿・制作委託費30%・イベント運営費0%）※2年目以降は、イベント運営も行い売り上げを伸ばす
- 初年度利益：500～1,000万円程度

コミュニティFM局の主な収入源は、**スポンサーからの収入**です。日々の活動を通じて、コミュニティFM局の有用性、価値を広く地域にご理解いただき、スポンサーを増やしていきます。
また、2026年度以降は、イベント運営事業にも着手し、着実に売り上げ及び利益を増やし、より地域に密着した事業運営を目指します。

- 【スポンサー収入のイメージ】
- ・小口5万円から設定し、より多くの企業に関わっていただき、参画者を増やしていく方針です。
 - ・初年度スポンサー費 1,750万円（売上2,500万円の70%）の場合：5～10万円：15社、30万円～50万円：10社、50万円～100万円：8社、100万円以上：5社程度 を募ります。
- ※スポンサー費には、大きく、CMスポンサーと番組枠購入があります。CMスポンサー30社、番組枠購入10社程度を想定し、具体的な販売額についても、今後検討して参ります。

